

# 手賀沼水生植物船上調査（7月）

美しい手賀沼を愛する市民の連合会 顧問 小倉 久子

## 1. 目的

県による外来水草駆除作業後の再繁茂等の状況確認と、在来抽水植物の分布状況を確認するため、船上からの目視調査を行った。

## 2. 日時

日時：2024年7月8日（月）9:30～11:30

調査エリア：手賀沼全域、手賀川

調査項目：

- ・ナガエツルノゲイトウ（以下、ナガエ）、オオバナミズキンバイ（以下、オオバナ）の再繁茂状況の調査
- ・マコモ、ヒメガマ、ヨシ等の分布状況調査
- ・県の駆除作業の見学

使用船舶：みずすまし号 古川船長

参加：千葉県立中央博物館 林紀男、千葉生態研究所 浅間茂、県水質保全課 田口、我孫子市手賀沼課 湯下・村尾、美手連6名 計13名（船長等含む）（敬称略）

## 3. スケジュール

9:15 集合 手賀沼親水広場 第2駐車場

9:30 乗船（我孫子手賀沼漁協棧橋）出航

⇒ 手賀大橋 ⇒ 手賀沼西側周回（反時計回り）⇒ 手賀大橋 ⇒ 手賀沼東側北岸

⇒ 手賀川 ⇒ 手賀沼東側南岸 ⇒ 帰航（我孫子手賀沼漁協棧橋）

11:30 下船

## 4. 調査地点図



## 5. 調査結果

### (1) 侵略的外来水生植物、特にオオバナミズキンバイの繁茂状態について

- ・ 手賀沼の手賀大橋上流部の、県による大規模駆除が行われた水域では、その後の継続駆除の効果

もあって、ナガエ・オオバナの深刻な再繁茂は確認されなかった。今後も地道な継続駆除による低密度管理が望まれる。

- まだ大規模駆除が行われていない若松植生帯では、特にオオバナの繁茂が激しく、早急に駆除を行う必要がある。
- 手賀大橋下流部の大規模駆除未実施の水域では、ナガエ・オオバナ群落が確実に生長しており、沖合からの目視によれば、特にオオバナの繁茂の勢いが著しいようであった。
- 今回の調査は、オオバナの開花期で黄色い花が目立ったこともあったが、調査した水域全般で、オオバナの成長が著しいようであった。オオバナが種子繁殖をすることも、広域で急激な群落の生長に関係するかもしれない。
- 2024年6月に手賀沼の水を用水として使用している水田においてオオバナの侵入が確認されており、沼内のオオバナ群落の急成長が原因の一つである可能性が高い。農業用水管理（ナガエ・オオバナ対策）の徹底が望まれる。

## (2) 在来抽水植物の分布域縮小について

- 手賀沼フィッシングセンター地先のヒメガマ帯は、衰退が確認されているが、2023年12月の前回調査時と比較して、少し勢いを取り戻したように見受けられた。前回（冬季）と今回（夏季）の季節の違いの要素が大きいと考えられるが、引き続き見守っていききたい。
- その他の水域においても、ヒメガマは沼内のあちこちに散在していたが、群落というより数株の「株立ち」程度のものが多かった。もうこれ以上減らすことのないよう、注意深く推移を見守っていく必要がある。
- 手賀沼内のヒメガマについては「令和5年度手賀沼における水生植物調査業務報告書」において、2019年から2023年度にかけて激減しているとされており、早急な原因解明と保全対策が必要である。今後もヒメガマ群落の動向について注視していくことが必要である。
- 県による大規模駆除が行われた水域では、ナガエ・オオバナの駆除の徹底のため、在来抽水植物帯の根元を洗掘してしまい、水際線の抽水植物に影響を与えていることが懸念された。

※ 下船後に、我孫子市生涯学習センター アビスタ学習室において、調査のふりかえり、意見交換を行った。



若松植生帯と岸の間は完全に閉塞



オオバナの花盛り(我孫子手賀沼漁協棧橋)



フィッシングセンター地先のヒメガマ帯



ヒメガマの根元からオオバナが侵入



駆除時に在来抽水植物の根元が洗堀された